

## 平成28年度第1回瑞浪市総合教育会議 会議録

日 時 平成29年1月26日(木) 15時30分開会

場 所 瑞浪市役所 4階 全員協議会室

出席者 (構成員)

市長	水野光二
教育長	平林道博
教育長職務代理者	五嶋久年
教育委員	加藤博之
〃	山田幸男
〃	柴田洋子

(事務局)

事務局長	伊藤正徳
事務局次長	藤井雅明
教育総務課長	酒井浩二
社会教育課長	柴田宏
スポーツ文化課長	工藤嘉高
企画政策課長	梅村修司
社会教育課長補佐	牛島正治

傍聴者 無し

報道関係者 無し

議 事

- (1) 瑞浪市のいじめの現状について
- (2) いじめ防止等のために瑞浪市が実施する施策について  
「瑞浪市いじめ問題調査委員会」の設置について
- (3) ケータイ・インターネット問題への取り組みについて

## ○伊藤事務局長

それでは、皆様、改めましてこんにちは。ただいまから平成28年度の第1回瑞浪市総合教育会議を開会いたします。司会を務めさせていただきます事務局長の伊藤でございます。よろしくお願いいたします。

教育委員の皆様には、定例会に引き続きご出席を賜りありがとうございます。

それでは、早速ではございますが、開会にあたりまして水野市長からご挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

## ○水野市長

改めまして、皆さまこんにちは。この前には、教育委員会を開かれたということで、お忙しい中、平成28年度第1回の瑞浪市総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。各教育委員の皆様におかれましては、それぞれ、生徒児童の皆さんの教育の充実、そして、健全育成に格別なご尽力を賜っておりますことに対し、改めまして、厚く御礼を申し上げたいと思っております。

今、市役所の周りが耐震補強工事をしており、何かと気忙しい状況になっております。おかげさまで、各教育施設を中心に優先的に耐震補強工事やっけてまいりまして、各幼稚園、小学校、中学校、そして、体育館等順調に計画的に進めることができっております。あと、その他の公共施設ということで随時やっけてまいりました。最後にこの本庁舎を耐震補強し、来年3月までに工事を終わらせ、しっかりとした庁舎に再生したいと思っておりますので、その間、大変ご不便をおかけするかと思っておりますがご理解いただければありがたいと思っております。

特に教育委員会の皆さんにおかれましては、昨年4月からスタートした瑞浪南中学校に関し、本当にご指導、ご心配をいただいていた訳ですが、山内校長先生以下、新しい中学校の先生方の協力をいただき、順調に1年間を終えようとしております。地域の皆さんからも、統合までには大変色々なご意見もあり、心配もおかけしましたが、何とか南中学校がよいスタートを切れたのではという評価もいただいておりますので、良かったと思っております。山内校長が陶中学校から南中学校に移っていただいたことで、子どもたちが落ち着いて新しい中学校で授業を受けることができたことは、教育委員会の配慮として大変良かったことだと思います。陶中学校出身の生徒さんたちが特に陸上やソフトテニスで頑張っていたいただき、南中学校の新しい歴史を作ってくれたという話を聞いており、陶の方からも本当に良かったという話をいただきました。今度2年目を迎えるので、しっかりとした学校運営をしていただけるよう我々も支えていきたいと思っております。

あと、北中学校の建設工事が今年から本格的に始まります。31年4月、新

しい中学校開校に向けまして、更に教育委員会の皆さんにおかれましては、是非、ご指導、ご鞭撻いただければありがたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

今朝、NHKのニュースで、「エデュケーション・プラス・テクノロジー」という、教育と科学技術を融合させた「エドテック」という新しいシステムで教育サービスを広めていこうとする動きが、特にアメリカを中心に広まりつつあるというものがやっておりました。これは、インターネット等を活用したオンラインシステムで教育サービスを更に高めていくというもので、ニュースでは、アメリカ等の教育格差をこの「エドテック」というシステムを使って皆が平等に教育を受け、教育程度により、それぞれの人生に大きな差がつかないようにする教育システムだということで、高い評価をされたと解説がついておりました。今夜、NHKで「エドテック」についての取組が放映されるので、私も一度観たいと思います。今、教育委員会の中でも、タブレットをどう活用していくのか、そんな時代になってきておりますので、当然、市としましてもそういう方面が次の教育現場の大きな課題になっていくのではないかと思います。この「エドテック」というシステムがどのような形で学校現場に活用されるのか、もしくは各家庭で活用されるのかということを我々が注視していかなければいけないと思います。是非、情報収集をしていただいて、良いシステム、良い取組であれば、いち早く瑞浪市でも入れていきたいと思っている状況でございますので、理解をいただければと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、今日、協議事項、そして、調整事項等が3題ございます。それぞれの委員の皆さんにおかれましては、忌憚のないご発言をいただきましてこの教育会議が有意義な会議となりますことをお願いいたしまして、私の挨拶いたします。よろしくお願いいたします。

#### ○伊藤事務局長

ありがとうございました。続きまして、平林教育長からご挨拶をいただきます。

#### ○平林教育長

失礼します。平成28年度の瑞浪市総合教育会議が開催できる運びとなりました。教育委員会として市長と率直に意見交換ができることを大変嬉しく思っております。

市長におかれましては、日頃から、今、話がありましたように中学校の統合等につきましては、全面的にバックアップしていただきましたし、様々な教育

委員会の事業につきましてもご助言をいただいております。大変ありがたく思っております。

そういう中で改めまして、市長と教育委員会が膝を突き合わせて様々な課題について話し合う会が持てますことをまた、大変良い機会と思って前向きに活かしていきたいと考えております。

本日の協議題は、教育内容的なことですが、2つのことを用意いたしました。1つ目は「いじめの重大事態に対する対応について」ということで、平成25年に国の「いじめ防止対策推進法」が施行されましたが、その後、3年間で約小中学生でいじめと疑われる原因で20名の子どもたちが自殺をしております。それから、不登校等に陥る等、精神的な疾患を患う等の重大事態につきましても約600件、1年200件くらい発生をしております。大変嘆かわしいことではあります、そのような現実です。

瑞浪市におきましては、平成18年度の悲しい出来事からちょうど10年を向かえました。あつてはならないことですが、もし、仮にそういうことが瑞浪市で起きた時に危機管理としまして、どのように対応していくか、是非、きちんとした動きを作っておきたいと思えます。

本当にいじめかどうかの認定は難しいことです。ですから、そういう事態が起きた時に慌てるのではなく、勿論、リスクマネジメントとして私たちはそういうことが起こらないようにしておりますが、クライシスマネジメントが起きた時にどうするかについては、やはり、前回の経験も踏まえつつ、機敏にスピードを持ってできるようなマニュアルというか、対応の仕方について共通理解をしておくことができたらしと思えます。

2つ目は、「ケータイ・インターネット問題の取組について」でございます。携帯やインターネットは基本的に家庭でのことですので実態や子供たちの様子から極めて掴みにくいです。いじめ等についても出てきますが、なかなか、学校が把握することが少ないです。しかし、子どもたちの世界の中では避けて通れない重要な問題となってきましたので、このことについても、妙案がある訳ではないですが、教育委員会として、市として、どのように子どもたちや親さんと接していったらいいか、何か良い知恵が1つでも2つでもできたら嬉しいと思っております。

本日の会が意義ある会になることを願ひまして挨拶といたします。よろしくお願ひいたします。

#### ○伊藤事務局長

ありがとうございました。

それでは、これより本日の議事に入らせていただきます。本日の会の議長

につきましては、瑞浪市総合教育会議の設置要綱の規定に基づきまして市長が務めることになっております。水野市長、よろしく願いいたします。

### ○水野市長

それでは、要綱によりまして議長を務めさせていただきますのでよろしく願いいたします。

では、本日のレジメに沿いまして進行させていただきますのでよろしく願いいたします。

協議事項、調整事項（１）瑞浪市のいじめの現状についてを協議事項といたします。事務局より説明をお願いいたします。

### ○藤井事務局次長

失礼いたします。

それでは、「瑞浪市小中学校のいじめの現状」について説明いたします。

資料１をご覧ください。まず、平成１８年度から平成２７年度までのいじめの認知件数の推移及びいじめの様態についての資料となります。次のページには概要が載せてあります。

平成２７年度は２６年度と比べると小学校では同数、中学校で１０件減少しました。１，０００人当たりの認知件数を岐阜県と比較しますと、小中学校とも少なくなっております。

次にいじめの様態についてです。いじめの様態の上位２項目は、この表から小学校では最も多いのが「冷やかしゃからかい」で４５．８％。次に多いのは「軽くぶつけられたりする」が２０．８％です。

昨年度の例では具体的に次のようなことがあります。「冷やかしゃからかい」については、何かをする時にいい子ぶってと悪口を隠れて言われる。あるいは名前を呼ぶ時に「〇〇菌」と名前に付けて呼ばれる。「軽くぶつけられたりする」という時には、例えば、鬼ごっこをしながらわざとぶつかってくる。机を手に着いたら強く払われたといったことがありました。

中学校では最も多いのが小学校と同様で「冷やかしゃからかい」５４．６％で、次に多いのが「仲間はずれ・嫌なことをされる」１８．２％です。具体的ないじめの例としては、「冷やかしゃからかい」ではデブがいるから楽しくないと言われる。こそこそと話をしているような気がする。〇〇が触ったので嫌だと言われるといったことがあります。「仲間はずれ」については、給食を配らせてもらえないといった例がありました。「嫌なことをされる」では、ジャージのズボンを下げられたということです。

資料１の裏側のページをご覧ください。学校教育課としましては、認知件数

よりもいじめが見つからないことやいじめがどれだけ解消したかを問題にしております。認知件数が多い、少ない等よりもいじめを確実に学校が見つかること、そして、その解決をしていくことを大切にしております。

いじめの解消率は、27年度の3月時点で小学校12件中11件、91.7%。残り1件は現在解消しております。中学校は10件中10件で100%解消でした。

以上でいじめについての報告とします。

#### ○水野市長

はい。ありがとうございました。

只今、説明がありましたが、何かご質問やご意見がありましたらよろしくお問い合わせいたします。どうでしょうか。

なかなか、集団活動の中でいじめをゼロにすることは難しいです。本人がいじめられていると感じるかどうかという大きな定義の中で判断をしている訳です。よろしいでしょうか。

現状ということですので、傾向的には18年から27年まで推移を見ますと相当改善はされてきているという理解でよろしいでしょうか。

どうですか。

#### ○藤井事務局次長

はい

#### ○水野市長

皆さんの努力によって改善しております。

では、いじめの現状については、只今の報告でご理解をいただいたということで次に進めさせていただきます。

それでは、2つ目の協議事項（2）いじめ防止等のために瑞浪市が実施する施策について「瑞浪市いじめ問題調査委員会の設置について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

#### ○藤井事務局次長

それでは、瑞浪市教育委員会が目指しております「瑞浪市いじめ問題調査委員会」について説明をいたします。まず、最初に3ページのフロー図をご覧ください。

児童生徒の自死、身体の重大な傷害、金品等の重大な被害等のいじめによる重大事態の疑いが生じた場合、学校は、まず、教育委員会へ報告します。教育

委員会は市長へ報告するとともに学校へ調査を指導します。学校の指導が難しい場合は、市教育委員会は第三者委員会である「瑞浪市いじめ問題調査委員会」へ諮問します。「瑞浪市いじめ問題調査委員会」は、重大事態がいじめによるものであるかどうかを調査する機関となります。

調査された結果は市教育委員会へ報告があり、市教育委員会は市長へ報告します。そこには、調査結果とともに被害者や加害者へのフォローの仕方等も報告されます。4ページはその際の具体的な担当が書かれた表になります。

次に、「瑞浪市いじめ問題調査委員会」の設置が必要な理由について説明いたします。戻って、1ページをお願いします。必要な理由については、ここにあります4点です。

1点目は、公平な第三者による組織が必要であることです。学校と保護者の双方の意見の食い違いが生じた場合、学校や教育委員会関係者ではない第三者による組織で調査をしてもらうことが必要になります。

2点目は、全国的ないじめの状況からです。全国で22万件に上るいじめが報告され、そのうち、重大事態は昨年315件ありましたが、なかには、悪口を言われたため重大事態になったという事例も出ており、いつ何時、重大事態が起きても不思議ではない全国的な状況になっているからです。

3点目は自治体の対応状況です。第三者委員会の準備のできている自治体はいじめによる重大事態が起きた時、素早く対応できるため、市民の信頼を得るからです。

4点目は、いじめ問題の難しさです。いじめは、その人がいじめだと思えばいじめになるものです。従って、ある人にはいじめに見えても本人ではそうではないと思う場合がありますし、本人はいじめだと思っても相手はいじめだと思っていない場合もあります。何がいじめで何がいじめでないか、はっきりしない場合もあります。そこで、医師、弁護士、心理士等の専門家による組織が必要です。

次に、再調査委員会についてです。2ページをご覧ください。「いじめ問題調査委員会」の調査結果が不十分であると市長が判断した場合は、市長部局に再調査委員会を設けることもできます。しかし、現在はそれを設けておりません。それは、2つの理由によるものです。

1点目は、今年度の11月に出された文部科学省からの取り纏めからです。この取り纏めでは、市長による最終調査が必要な場合が纏められております。2つ枠がありますが、2つ目の下の枠をご覧ください。市長による再調査が必要な場合は、中点にあります。当初の調査における委員の人選が公平性を欠くとき。2つ目は、当初の調査において、関係者間で調査を行うと合意していた事実関係が調査されていない等、調査事項に不備があるとき。3点目は、当

該事案における学校の対応について調査が十分に行われないうき。この時に、再調査を行う必要があります。

しかし、これに対して、瑞浪市が考えております「市いじめ問題調査委員会」は、公平な人選を行う委員は学校・教育委員会関係者と利害関係のない人物を選ぶ。2つ目は、全ての調査項目を調査する。3つ目は、学校の対応についても十分な調査を行うとするものとして設置をします。従って、再調査委員会は設けずに行おうとしております。

2点目の理由は、学校の児童生徒に係る問題については、市教育委員会が責任を持って解決していくことが地域住民への期待に応えることになるからです。市長による再調査の必要のない「いじめ調査委員会」を設置することで、住民に対する責任を負っていきたいと考えております。

なお、設置規則等につきましては、先月、現在の教育委員の皆様からご意見をいただき、事務局の方で検討しております。以上で、「いじめ問題調査委員会」についての説明を終わります。

#### ○水野市長

ありがとうございました。

只今の説明に対して、ご質問やご意見がございましたらお願いします。

今まで、全国で発生したいじめは、当時こういう調査委員会制度がなかったということで、教育委員会の中だけで判断していた訳ですね。

#### ○平林教育長

当時と言いますと、18年度の件に関わってですか。

#### ○水野市長

それ以降も九州や滋賀県でもありましたよね。

#### ○平林教育長

瑞浪市におきましても、18年度の出来事に関しては、やはり、教育委員会の内部で判断したので、結局、加害者と被害者の訴えが違っており、学校は両方から責められるような形になりました。

今から思うと今後に向けては、やはり、きちんとした学校・教育委員会以外の中立公平な第三者がきちんと原因究明していくことが、遺族にとってもとても重要ではないかと思えます。

最近は、市長さんが言われたように市の第三者委員会を使うところが増えてきました。データによりますと、条例に基づいて教育委員会の附属機関として

第三者委員会を設置しているのは都道府県では約77%が設置しました。それから、市町村では47%が今のような附属機関を条例で作って対応しようとしております。

#### ○水野市長

これは、事件が起きてから設置するものではなく、常時設置しておく委員会ということですね。

#### ○平林教育長

それが一番良いことだと思います。このシステムがない市では、重大事態が起きた時に急遽、臨時議会を開き条例を制定したという自治体もあります。

先程の話では、子どもたちが大変弱くなってきて自殺の原因を調べると、「悪口を言われた、体型の悪口を言われた」や「部活で弱いと言われた」というような悪口でもって自殺している事例も増えてきているので、やはり、瑞浪市においてもいつ何時あるか分かりませんので、こうした体制をきちっと整えておくことが、あってはいけないことですが、やはり、大事ではないかなと考えます。

#### ○水野市長

そうですね。我々の子どもの頃にも色々ありましたが、それなりに子ども間で解決していたのでしょね。今の子どもたちはそれだけの強さがないということでしょうか。その他何かご意見はありませんか。制度的には「いじめ問題調査委員会設置」ということは必要だとは思いますが。

#### ○平林教育長

特にまた、遺族の方が学校や教育委員会の調査では、なかなか、納得されないと聞きます。特に第三者委員会等で調査すると、学校の対応が十分でなかったというようなことも出てきて、そのようなことも踏まえて、遺族の方々は学校主体あるいは教育委員会主体の調査には、なかなか、満足されない、そういう状況もありますので、きちんとした条例整備をした公的な権限として持っている調査委員会が必要ではないかと考えます。

#### ○水野市長

今後、予定としてはいつまでに設置するのですか。

#### ○藤井事務局次長

3月議会で附属機関の方に入らせていただいて、そして、すぐに規則とメンバーを決めさせていただきたいと思っております。

○水野市長

4月1日、新年度からスタートですか。

○藤井事務局次長

はい。それを目指しております。

○水野市長

第三者ということですので、教育委員さんたちがそのメンバーにならない訳ですね。

○教育長

人選がとても大事です。例えば、その第三者委員会に入る弁護士が瑞浪市の顧問弁護士であっても保護者はクレームをつけるので、全くその市と関係のない方を県教委なりの紹介で選んでもらうより着地点はないのではと思います。

○水野市長

弁護士も専門分野が違いますから、やはり、こういうことに長けている弁護士さんも入れ選定しないといけないでしょうね。分かりました。

では、今、教育委員会としては準備をしていただいておりますのでご了承いただけるということでよろしく願いいたします。

それでは、続きましての協議・調整事項(3)「ケータイ・インターネット問題への取り組みについて」を議題とします。これは、本当に青少年育成市民会議や市P連の方で、前々から課題として取り組んでいただいております、特に市P連では、熱心に専門の講師をお招きして研修会・講演会を開いて勉強してみえます。しかし先程、教育長がおしゃったように、なかなか、家庭内の問題、個人の問題ということで、幾らPTAといえども実態をどこまで把握出来て踏み込んでいるかということは本当に難しいところであります。この取り組みについて、成果の報告をお願いします。

○牛島社会教育課長補佐

失礼いたします。「ケータイ・インターネット問題への取り組みについて」説明させていただきます。お手元の資料3をご覧ください。

教育委員会では、平成26年度より青少年育成市民会議と瑞浪市PTA連合

会が連携いたしまして、インターネットの問題から子どもたちを守るために「瑞浪市ケータイ・ネットに関する家庭のルール～決めて守ろうわが家のルール～」の活動を進めてまいりました。

今ほども話題になりましたが、これは家庭の中のことが結構関わるため、非常に難しいことですが、家庭や地域の関わりの中で様々なネットに係る問題の未然防止、早期発見、早期対応、そういったことを目指すものでございます。

この取り組みは、平成26年12月に岐阜県議会で全国に4番目に制定され、家庭教育支援条例に先立ち進めてまいりました。県の教育委員会でも県の条例を受け「話そう！語ろう！わが家の約束」運動といたしまして、家庭教育の基本は、家庭で十分話し合う場を作ることにあることを提唱してまいりました。

平成27年度に瑞浪市で取り組んできた内容や成果・課題等は、資料3の2ページに載せてあるとおりでございます。ここで明らかになりましたことは、児童生徒の実態によって取り組み内容や成果・課題に大きな違いがみられたことです。当然、発達段階の違いにより、児童生徒をネットの問題から守る守り方には違いがあるのは当然でございます。

そこで、今年度は、市P連が主導して市全体の統一テーマに向かって取り組んでいくということよりも、各PTAで課題をそれぞれのPTA、学校の課題を分析していただいて、その解決に向けて進めていく方が効果的であると考えました。そこで、平成28年度はそれぞれの学校、PTAでテーマを設定し、内容を吟味しながら取り組んでまいりました。その手助け、支援を教育委員会として行ってまいりました。現在、平成28年度の各学校の取り組み内容や成果課題をまとめ、来年度に向けての方向性を明らかにしようとして検討している最中でございます。従いまして、この場ではっきりと平成29年度を目指す方向をお示しすることはできませんが、今年度の取り組み内容や成果課題につきまして簡単にご紹介させていただきます。

資料3の3・4ページをご覧ください。先程の平成27年度の取り組みの成果課題と比較し、今年度大きな変化がみられたことは、幼稚園、小学校、中学校が連携して取り組んだ事例が増えたことです。中学校区を基盤にして、幼小中一貫教育推進協議会の取り組みとして、位置づけられた学校が増えてまいりました。各家庭では同じ時期に家族揃って取り組むことができますので、非常に高い教育効果が見込まれます。また、それ以外には、学校評価の保護者アンケートの項目に、わが家のプラス1ルールに関わる質問を入れていただいて保護者への啓発を図るとともに、取り組みの成果を検証する学校もみられました。逆に課題として、取り組みに対する意識が家庭において差があるという点が毎回あがる点でございます。ネットの問題から子供たちを守る取組を行ったり、学校で実施される様々な講演会へ参加する、個別に懇談会持つ、そういった際になか

なか協力的ではない家庭に、どうやって協力していただいて、効果を生み出すのかそういったことが永遠の課題かもしれません。今後も引き続きそういった家庭に対しても手だてを講じていきたいと考えております。平成29年度の各学校の活動方針は、今年度の取り組みを継続していこう、さらに踏襲していこうと考えている学校が多くみられます。今後市のPTA連合会、青少年育成市民会議でも検討を経て来年度目指す方向をさらに明らかにしていきたいと考えております。以上、ケータイ・インターネット問題への取組みについての説明を終わります。失礼しました。

#### ○水野市長

ありがとうございました。県も動き出したということですが、今の報告につきまして、ご意見などはございませんか。

#### ○平林教育長

教育委員さんのご家庭では子供さんにどのように携帯と関わりを持たせていましたか。

#### ○五嶋委員

(現状について発言)

#### ○柴田委員

(現状について発言)

#### ○加藤委員

(現状について発言)

時代の流れをある程度汲み取って、それをいかにうまく使うか、逆にそういった教育をした方が、むやみやたらにダメという教育ではなく、知識を与えるというか、それを使いこなせるようにするという教育をした方が、こういった時代ですので効果があるかなという感触を持っております。

#### ○山田委員

(現状について発言)

#### ○水野市長

ありがとうございます。

### ○平林教育長

基本的に小中学生は持たせないということではなく、正しく使おうという基本的な路線ですか。

### ○牛島社会教育課長補佐

おっしゃるとおりで、頭から禁止という形はとっておりません。各家庭で話し合っていくましよう。必要であれば、必要であるということをおと子で話し合つて決める、使い方を決める、使う約束を決める、その話し合つて親子で約束を決めることこそが家庭教育の始まりというふうにつえておりますので、頭から、これは禁止ということて、動いている学校はございません。

### ○水野市長

山田委員ではないですが、1、2歳の孫も携帯を触りたがります。

そのような時代、環境で育ててしまうので、使うなということて言えないですし、間違った使い方をしないように小さい頃から逆に教育しながら、触らせないといけないかなと思ひます。

### ○山田委員

最近の子どもとその親をみた時に、子どもと親の差があまりない、考え方や発想が非常に近しい関係にあり、そのような中で、子どもに注意することを親世代にも注意をしないではいけないという現実があります。今説明があつた取組みで言うて、青少年育成市民会議やPTAで親世代に訴えていることは非常に意義があることだと思ひます。学校では子供たちにそれぞれこういった教育をするわけですが、同時に親に対しても教育をする、或いは話し合う、親の自覚を高めていくという取組みは非常に大きな意味がありますので、今日発表があつた実践はそういった意味で非常に意義があると思ひます。

### ○水野市長

親に教育をしなければいけないということですが、本当にそう思ひます。

### ○平林教育長

親の中には、積極的に子どもに持たせたいと思つている親もあり、子どもに携帯を進める親も最近増えてきています。

学校生活の中で、学校へは持ち込まないということになっていきますので、瑞浪市の場合学校で携帯が鳴るといふようなことはなひです。家庭の中では、随分

多くの子が使いこなしているのではないかと思います。

#### ○加藤委員

資料3の2ページの③明らかになった課題にネットトラブルにあった生徒があったという表現がされているが、具体的にどういうものですか。

例えば今一番問題になっているのが、先ほどのいじめの問題に置き換えますと、ラインやツイッターに書き込みをされ、いじめが原因でというものが最近の事例としては非常に多いわけですが、直接、その子に悪口を言うのではなく、携帯等媒体を通していじめに発展するといった場合が多いですが、瑞浪市の場合、そういった事例はありますか。

#### ○牛島社会教育課長補佐

大きく重大事件、事故としてあがってきた事例はあまりありません。27年度のアンケート結果の③明らかになった課題のネットトラブルにあった生徒があった件につきましては、ネットの書き込みで悪口を書かれたもの、アダルトサイトの請求がきたものとなります。

#### ○平林教育長

関連で、瑞浪市におけるいじめの認知件数の推移の資料1の中で、27年度のいじめの様態の中で瑞浪小学校で1件、パソコンや携帯で、誹謗中傷やいやなことをされるといものが報告されていますが、具体的にどのような事例か分かりますか。

#### ○水野市長

どうですか。実態は分かりますか。

#### ○藤井事務局次長

ラインを使って悪口を書き込んだというものになります。○○君をいじめてという書き込みだったようです。

#### ○平林教育長

たくさんではないが、そのような事例がでてきているということです。

#### ○加藤委員

ライン繋がりの子にそのようにみんなでいじめようという書き込みがあつて、本人には伝わっていないということですね。

○藤井事務局次長

最終的に本人や親御さんが見つけ、情報が入ってきます。

意地悪な言葉だけではなく、写真を知らないうちに載せてしまうというものもあります。

○水野市長

その他どうですか。

○五嶋委員

先程、親の教育というものがありました。おそらく子どもの発言を聞いてみると、子どもの方がはるかにマナーがいいように感じます。子どもの教育も大事であるが、親世代の教育の方がもっと大事なことはないか、子どもと同時に親にマナーを教えることも非常に大事であると感じております。

○水野市長

どうでしょうか。柴田委員さん、女性の立場で。

○柴田委員

私は仕事の関係でスマホを持ち始めたのですが、フェイスブック等はぜんぜん分からないので、そういったトラブルはありません。

一番困ったのは、アマゾンで買い物をする時に、知らないうちに会員になってしまい、子どもに解除してもらったことがあります。親の方が分からないことが多く、子どもに教えてもらうことが多いので、五嶋さんが言われた通り、親の教育も必要であると感じます。

○水野市長

その他どうでしょうか。

○加藤委員

先程、PTAや学校の取組みの中で、ノーテレビ、ノーゲームが一番大きなテーマであるが、小学校の高学年や中学校で携帯の使い方の授業は具体的には取り組まれていますか。

○学校教育課長

情報モラル講習会という形で子供向け、保護者向けに行っております。授業の中で子供には情報モラルとはどのようなことが大事なのか、どのようなこと

がいけないのかについて行っておりますし、保護者についてはPTAの家庭教育学級や講演会等で啓発している状況です。

#### ○水野市長

ありがとうございました。NTTより専門の方に来ていただいて、使用上の注意などの話を私も一緒に聞きましたが、やはり、PTAや市P連の講演会に来たり、青少年育成に参加してみえる方はごくわずかですし、その方たちはいいお話を聞かれ、たぶん参考にしてみえると思いますが、問題はそのような席にみえない方がまだまだ多く、確かに大人は、かえって子ども以上に使い方が熟知していないのかもしれない。

#### ○平林教育長

携帯やスマホのトラブルではなく、ネット依存症の問題は子供たちの中に現れていませんか。

#### ○牛島社会教育課長補佐

はっきりとした数は把握できていませんが、今年度の反省を集める中で、ネット依存症的なお子さんがみえると書かれたものはありました。

#### ○水野市長

その辺は確かに大きな課題ですね。

#### ○平林教育長

そのような子は、学校生活がうまくいっていないとか、そういうところのめり込んでいく、友達とのつながりではなく、携帯を相手に自分の時間を費やしてしまうことが多くなるので、学校生活において、生きがいを見つけさせる指導も大事かなと思います。

#### ○水野市長

この話は尽きないですが、今大きな発言としては、親である保護者に対し、さらにしっかりとした指導をしながら、子どもたちにも指導していくことが大切かなと思います。今度近々に市P連や青少年市民会議もあり、そこでも大きなテーマになっていますので、私もあいさつの中で改めて皆さんにお伝えしたいと思います。

その他よろしいでしょうか。

それでは、第3の協議・調整事項につきましては、このような現状だという

ことで、引き続きしっかり課題として、それぞれの機会に取り組んでいていただきたいということでよろしいでしょうか。

せっかくの機会ですので、その他何かご発言はありませんか。

#### ○加藤委員

先程、市長さんの冒頭のあいさつの中で「エドテック」という言葉がでてきましたが、文科省でも2020年までにICT教育で生徒一人1台を目標にされていると聞いています。そこで2月1日に教育委員会としてICTの先進校視察ということで、岐阜市の小中学校へ視察に行くわけですが、来年度北中学校の建設費用が膨大にかかるということもありICT関連の予算は難しいということであるが、今度の視察でICT教育は効果的だという結論ができれば、今後そういった予算を付けていただける方向と考えてよろしいでしょうか。

#### ○水野市長

それは当然、このような時代ですから分かりますが、ただ流れに乗って、欲しいというだけでは困りますので、それを配備した時にどう活用するのか、どう効果に繋げていくのかをしっかりと提案していただきたいです、例えば、電子黒板にしても、これは文科省の指導もあり、補助金もあったので各学校に配備したわけであるが、これは本当に有効に使われているのか、使われていないのかをしっかりと検証していただきながら、次のステップにいていただかないと、配備した後上手く使っている学校とそうでない学校があったのでは困りますので、活用のシステム作りまでセットして提案していただけるとありがたいと思っています。ただ、その辺の所も視察してきていただきたいところです。使っている授業風景だけ見るのも参考にはなりますが、そういった背景がしっかり準備されているかどうか、そして先生方がその知識をしっかりと習得してみえるかどうかも大事なことで、これからしっかり取り組まなければいけない事です。

#### ○加藤委員

私個人的には、推進70%、課題があるなど思うところが30%くらいあります。やはり導入するには市長さんが言われる通り、一遍に導入して何億という予算をかけ、ぱっと入れてそれが上手く活用されなければ、宝の持ちぐされになってしまうので、まずは、小さく実証的に始めて、効果があるようなら順番に導入していくというふうがいいと思いますので、多少なり予算付けもある程度必要かなと思います。

#### ○水野市長

その辺も含めて、どのように取り組むかですね。

○山田委員

2学期に明世小学校の体育でタブレットを使った授業をやられたようですが、その時どのような感じでしたか。

○藤井事務局次長

市内の教員に技術や技能を広めたり、どう効果的であるかを実証するために、明世小学校で体育の時間にタブレットを使って授業を行いました。子どもたちがタブレットを活用し、マット運動で自分が動いた様子を撮っていただいて、それを見て次はどこを修正したらいいのかを子供たち同士で話し合い、次にまた演技を実際にやってみるという使い方をしました。

○山田委員

かなり効果はありましたか。

○藤井事務局次長

自分自身では分からないところで、実際自分の動きを外から見たことがないので、実際に外から見ることにより、この時脚が曲がっているなどか、上がっているんだなということが分かり、その時の様子を変えようと動いているという授業になっていました。

○水野市長

そのように段階を踏んでいかなければいけないでしょうね。今のパソコンの学習の現状はどうですか。授業の中で子供たちは相当使いこなせていますか。

○藤井事務局次長

当然個人差はありますが、基本的なことは小学校、中学校でもやっています。また、いろいろな学習のまとめをしたりする時もパソコンを使い、写真を取り入れたり、グラフにしたり、勿論文書を書くまとめもさせておりますので、随分上達はしています。子供の上達力の速さに驚いているところでございます。

○水野市長

その他ありませんか。

それでは、私の方から、まだそれ程報告できる状態ではありませんが、高校、特に瑞浪高等学校について、県の教育委員会の統廃合の対象となっております

ので、今の現状についてお話をさせていただきます。

みなさんも新聞等で一定の情報を得てみえると思いますが、県の教育委員会としては、県下公立高校が65校ありますが、勿論普通科だけではなく、商業、工業、農業といろいろな学校があるわけですが、一番の原因は生徒数が定員を満たさなくなった学校が多くなってきた状況から、統廃合を進めるということを決められ、今その取組みをしようとしているところでございます。

数年前にこの辺でも大きな統廃合がありましたが、今回は十分協議期間を設けまして、地域のみなさんも、その学校の存続、統廃合の協議に参加して、どうあるべきかをまとめていこうとする県の取組みです。前回、岩村高校や明智商業がなくなる時は、ほぼ県のトップダウンで行われましたが、今回は、そうではなく3年間という期間をいただき、今年が1年目、来年2年目、再来年3年目ということで、3年間の動きをみるなかで総合的に判断して、どの高校をどうするかを決めていきたいということです。一番大きなポイントは、やはり生徒数が維持できているかどうか一番大きなポイントです。また、魅力あるカリキュラムなり、高校になっているかどうか大きなポイントになってくるようです。1年間取り組んでまいりまして、校長先生の話では、来年度の普通科、生活福祉科の今のところ入学希望者を調査しているところだが、両方とも定員をオーバーできそうだという報告がきております。まずは1年目の活動の成果はでているかなという感じがしております。今、意向を聞いた段階での状況ですので、実際に受けてくれる生徒数、さらに、合格してくれる生徒数が定員をオーバーするかどうかは別ですが、瑞高を受けたいという意思表示をしている生徒数が今のところオーバーしているということで、校長先生もほっとしてみえました。2年目、さらに瑞浪高校が、魅力ある高校として、中学校の先生方や、保護者の皆様、地域の皆様のご理解をいただいて、ぜひ子供たち孫たちに瑞高を受けさせよう、瑞高にお願いしたいという高校にさらにしていかなければなあと思います。そんな状況で、来年、再来年度の状況を見て、4年後、5年後どうしていくかを県の方で決めていかれるだろうという状況です。私としては、絶対瑞浪から公立高校を失くしてはいけないという思いで動いているところでございます。東濃5市にメインの駅があるわけですが、それぞれの5市には少なくとも1校は公立高校を残してほしい、1校はあるべきだと思っていますし、まして瑞浪高校は瑞浪駅からも歩いて行ける範囲でもあり、他の高校よりも通学のアクセスもいいということ、それから、瑞高の90年を越える歴史、地域に対する貢献度ということから考えても、瑞高は残すべきだと思いますので、そのように、県にも訴えかけております。教育委員の皆様にもご理解をいただいて、市民の皆さんに発信していただければありがたいと思います。ただ、逆に親御さん達の立場になってみれば、瑞高に入ると、どんな大学に

行けるのか、どんな会社に就職できるのかが保護者にとっては大きなポイントとなってきますので、そのようなところも瑞高側としてもしっかり発信しなければいけない。瑞高に入れば、このような授業を受け、このような大学に進学できます、このような会社に就職できるよう指導しますというようなところまで、しっかり発信ができるようにしていかなければいけないかなと校長先生も言ってみえます。よろしくお願ひします。

その他市政に対して何かありませんか。

それともう一つは、市の小中学生の子供たちに瑞浪市のよさをもっと知ってもらいたいと思います。今回、陶磁器工業組合の皆さんが、今まで、1月に今年度の新作発表会を業者の方だけを対象として行ってきたが、今年度、一般市民の方や子どもたちにも見に来てほしいということで、会期を1日延長してくださいました。子供たちに、瑞浪でどんなすばらしいデザイン、どんないい品質の陶器が生産されているか知ってほしい、そして、将来陶磁器産業に携わっていただけるようなきっかけ作りにしたいということでした。教育委員会に協力していただいて、土岐小学校と瑞浪小学校の子どもたちが来てくれました。来年度は市内全域の子どもたちに見にきてもらえるような機会にできたらいいなと思っています。

大湫宿で丸森邸という国の文化財にも指定されています古いお屋敷が、雪害で壊れましたので、改修して本当にすばらしい昔のお屋敷のように復元をしました。これもできたらぜひ見に来ていただきたいなと思います。まずは、瑞浪の人に見に来ていただき、大湫宿のすばらしさや昔の人はこんなお屋敷で生活をしていたんだというようなことを知っていただきたいと思います。そして、市外に発信してもらいたい。そんな機会にしたいなという中で、企業訪問をもっともっていただきたいと思います。市内には大きな会社はなく、上場企業は1社だけであり、その他は中小企業であるが、それでも、世界に発信できる企業もあるので、そのことを小中学生に知ってもらいたい。私達が子どもの頃は、社会見学で陶の陶磁器工場へ行きました。すごい陶器がこんなにたくさん作られている、瑞浪は陶磁器の街であり、これが世界に輸出されているんだと感じた記憶が今でも残っています。企業訪問をし、瑞浪の企業を知ってもらいたいと思います。

裏を返せば、皆さん人集めに苦労してみえます。せつかく企業誘致をして、働く場所を確保しても、人が集まらないのです。もともと地場産業も人が集まらず、せつかく企業進出しても人が集まらず、創業できないという状態なんです。昨年の4月にある企業に来ていただいたのですが、1年経ったがフル操業できない、人が集まらないと言ってみえました。すごく綺麗な会社で、置いて

ある家具のセンスもよく、会社の設備も最新なのですが、人が集まらないという状況です。設計、デザイン部門は本社から連れてきて稼働しているが、実際の製造ラインはまだ十分に稼働しきれない状態が続いているそうです。残念です。小学生、中学生の皆さんに瑞浪の会社訪問をしていただき、瑞浪で生産されている商品に触れていただく、そんな機会をぜひ設けていかなければいけないし、教育委員会の役割かなと思います。以上です。

#### ○山田委員

私も同じようなことを感じたことがあります。以前瑞浪小学校で加藤孝造先生をお招きして、子どもたちに話をさせていただいたことがあります。子供たちの集中力が1時間もつかなと心配しましたが、本当に一生懸命私語もせず聞いていました。やはり、本物はすごいなと思いました。昨年、加藤孝造展を見に行きましたが、これはすごいと思い、ぜひ子供たちに見せたいと思いました。作品を見ることは勿論ですが、流れていたプロモーションビデオ、作品を造って見える様子のビデオを見ることも子供に大きな感銘を与えるのではないかと思います。ぜひせつかくいいものがありますので、学校の子供たちが作品を見れるような機会を何らかのかたちで教育委員会も動いて作っていただけるといいなと思います。本物或いは市内のいいものをどんどん見せることは大事なことだと思います。

#### ○平林教育長

瑞浪のよさではありませんが、今年の秋に国際陶磁器フェスティバルが開催され、本部の方から車が出していただけるということですので、市内の学校は進んで参加したいと考えております。

#### ○水野市長

9月・10月ですから、授業中ですね。夏休みだとよかったですね。

#### ○平林教育長

せつかくの機会ですので、学校は前向きに考えて、参加したいという意向でいます。

#### ○水野市長

お願いします。

それでは、貴重な発言をいただきまして、ありがとうございました。

本日の議事は終わりましたので、進行は事務局へ戻します。

○伊藤事務局長

市長、進行の方をありがとうございました。

予定しておりました議事について、活発なご意見をいただきましてありがとうございました。

4、その他、市長さんもみえますので、何かございませんか。

次回の総合教育会議についてですが、市長あるいは教育委員会が協議したい事項ができた時、あるいは、緊急事態が生じた時、随時開催されるものとしております。必要に応じて事務局より連絡をさせていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上をもちまして、平成28年度の第1回総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

16時45分終了